

# SOWER

ソア=種まく人

No.28  
August 2006  
財団法人  
日本聖書協会

## 特集 今、聖書を問う

「国際聖書フォーラム2006」をふりかえって



2006年8月20日発行  
[年2回発行]

発行・財団法人 日本聖書協会

〒104-0061 東京都中央区銀座四丁目5-1 聖書館ビル  
電話 03-3567-1987 FAX 03-3567-4451 振替 001600218410

振替 001600218410

SOWER  
ソア  
No. 28



## 旧新約版 スタディバイブル

10月初旬  
発売予定

わかりやすい解説つき聖書(新共同訳)



いよいよ旧新約版スタディバイブルが登場します。  
従来の新約聖書版スタディバイブルに旧約聖書が加わり、  
より深く聖書を学ぶことができるようになりました。  
聖書本文に並記した解説とイラストの他に、  
各書の概説、キーワード、資料を豊富に掲載しました。  
新約聖書スタディ版に比べ、サイズも大きく、  
読みやすくなっています。  
聖書を深く知るために、お勧めの一冊です。



詳細な解説を聖書本文と同一頁で読むことができます  
(※この内容見本は52%縮小のサイズです)

※写真の装幀は製作中のものです

予 価 上製本(クロス装) 12,000円(税込)  
並製本(紙装) 10,600円(税込)

●サイズ B5判(182×257mm) ●2,208ページ

特別定価期間

2007年3月末日迄

上製本(クロス装) 9,800円(税込)

並製本(紙装) 9,500円(税込)



「今、聖書を問う。」

9月初旬発行予定

— 国際聖書フォーラム2006講義録 —

出席できなかった講義を味わい、聴講した講義を学びなおすために。

■日本聖書協会編・発行 ■予価：3,500円(税込)

海外講師の講義も全て日本語に訳されます(講義の際に配布された原稿を大幅に改訂いたします)。



■予約申込、お問合せは下記まで



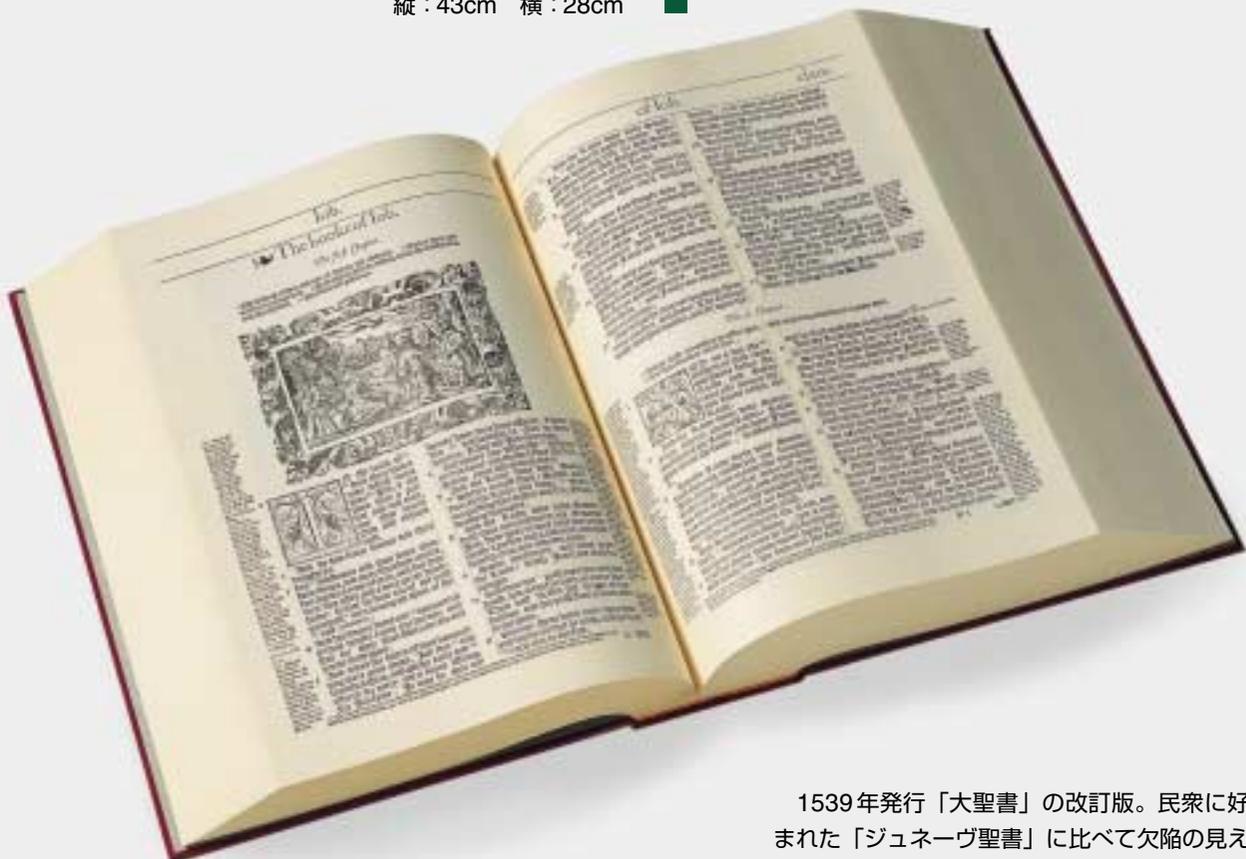
財団法人  
日本聖書協会  
JAPAN BIBLE SOCIETY

〒104-0061 東京都中央区銀座4-5-1 聖書館ビル  
TEL 03-3567-1987 FAX 03-3567-4451 <http://www.bible.or.jp>

お近くの書店にご注文ください(聖書協会のHPからも注文できます)

# 主教聖書

1568年  
(ファクシミリ版, 1998年)  
縦: 43cm 横: 28cm



1539年発行「大聖書」の改訂版。民衆に好まれた「ジュネーヴ聖書」に比べて欠陥の見える国教会指定の「大聖書」を、カンタベリー大主教マシュー・パーカーが主教と学者たちに命じて改訂させた。

改訂は、原則として大聖書に従い、ヘブライ語・ギリシア語の原典と照らして、かけ離れている場合のみ変更した。論議的となるような注や内容は避けた。

大型版で、活字はゴチック体。節区分がついている。

1571年のカンタベリー大主教会議で、各主教はこれを各自の家庭および所管の大聖堂に備えることを義務づけられ、すべての教会も置くことが望ましいとされた。これによって多くの版を重ねた。

「主教聖書」の改訂版がキング・ジェームズ聖書の基礎になったため、キング・ジェームズ聖書の成立を見るために欠かすことのできない聖書である。

# 新 27 聖書の 世界

写真／文 横山 匡



## バールベツク

レバノン北東部、レバノン山脈とアンチ・レバノン山脈の間にベカー高原があります。中近東でもまれに見る肥沃地帯です。預言者アモスはこの高原を「悪の谷」と呼びました(アモス一・五)。

ギリシア人はここにヘリオポリス(太陽の町)を建設し、ギリシアの神々と地元のバアル信仰を融合します。バアルは雨と嵐を司る豊穡神です。フェニキア人は雨乞いのために、子山羊を乳の中で煮る儀式を行います(出エジプト二三・一九参照)。さらにバアルの配偶神アシュトレトとの関係をまねて、神殿で不品行が行われます。遊牧民であったイスラエルの民も、カナンの地に定住して農耕を始める、バアル信仰に影響され始めます。イスラエルの預言者たちは、終始一貫この異教と戦い続けました。

紀元前一六年、ローマの植民地となり、時の皇帝たちは、自分たちの信じる神々のために競って壮麗な神殿を建てました。ジュピター、バッカス、ビーナス神殿などが残っています。四世紀になるとキリスト教がローマの国教となり、ここには教会が建てられました。七世紀にはアラブ軍に占領され、要塞都市とされます。

巻

頭

聖

句

何よりもまず、神の国と神の義を求めなさい。  
 そうすれば、これらのものはみな加えて与えられる。  
 だから、明日のことまで思い悩むな。  
 明日のことは明日自らが思い悩む。  
 その日の苦勞は、その日だけで十分である。

(マタイによる福音書 6章33-34節)

1919年、日本にリバイバルが起こりました。

ホーリネス教団をつくられた中田重治先生が先立って日本の伝道を始められた時、  
 そこで聴かれたのがこの聖句でした。

日本はいまだ1%のクリスチャン人口と言われて久しいです。

残る多くの人々の救いのために、リバイバルが与えられるよう、命をかけて祈り抜く時だと信じています。

また、中田先生はイスラエルの救いのために常に祈られ、

イスラエルが救われなければ世界に平和は訪れないと言われていました。

私たちにすべて必要なものは与えられています。些細なことに思い悩むことなく、

神の御支配と再臨を祈り求めていきましょう。

## 鈴木留蔵

すずき とめぞう

丸留建設(株)会長

## CONTENTS

Sower  
No.28  
2006

2 ソア28号発行によせて  
BS NEWS 渡部 信

3 特集  
今、聖書を問う  
「国際聖書フォーラム2006」をふりかえって  
編集部

10 聖書セミナー① 水垣 渉  
初期キリスト教と聖書的伝統

12 エッセー② アレクセイ松平康博  
生活の智恵満載の聖書

14 人物と聖書 鈴木範久  
新島襄と聖書

16 JBS情報  
ギユッラフ版 約翰福音之傳+CD  
イベント情報/2007・2008手帳

17 Bible Guide  
パノラマバイブル発刊一周年  
一生モノの豪華聖書

18 日めくり聖句カレンダーのご案内  
2006年度「海外聖書製作支援計画」

20 聖書普及を支えるサポーターに  
なりませんか?

19 聖書図書館蔵書シリーズ②

21 主教聖書



### 表紙の言葉

異人館通りにある「萌黄の館」  
 前のベンチには、実はサックス  
 を抱えた人の銅像がある。  
 開港場として栄えた神戸が日  
 本のジャズ発祥の地であった  
 ことの面影を残している。有  
 形無形のさまざまな外国文化  
 に開かれた街は、今でも多く  
 の外国人が住み、魅力的な街  
 であり続けている。

(絵・文=佐藤百合子)



# 今、聖書を問う

## 「国際聖書フォーラム2006」をふりかえって



編集部

聖書翻訳の歴史は1800年以上に及びます。昨年、翻訳部を立ち上げた日本聖書協会では、聖書をさまざまな角度から学び直すために、今年5月3日から5日にかけての3日間、ホテルニューオータニ（東京・赤坂）において「国際聖書フォーラム2006」を開催いたしました。会場には3日間で延べ2000人以上の人々が訪れ、国内外の著名な学者、研究者のセミナーに耳を傾けました。講義の内容は、「聖書学」「聖書翻訳」「教会と社会」と大きく3つに分けることができます。今回は、このフォーラムの様態を、23名の講師による29のセミナーを中心に振り返ってみたいと思います。



アドリアン・  
シェンカー

フリブール大学名誉教授、  
ピブリア・ヘブライカ  
第5版（BHQ）刊行チーム  
総責任者

セミナー5、15

死海文書の権威であるトールヴ氏は、同文書刊行までの複雑な経緯や、今まで触れられることが少なかった正典としての旧約聖書との関わりを簡潔に語った。巻物の発見から六十年を経た今、このフォーラムは、さまざまな問題点、疑問点を総括するまたとない機会となった。氏はこれまでの歴史を振り返ると同時に、死海文書を書き残したクムラン教団に焦点を絞って見解を述べ、「謎」に包まれていた死海文書に学問的な光を当てた。



エマニュエル・  
トーヴ

ヘブライ大学教授、  
死海文書刊行国際チーム  
総責任者

基調講演、セミナー23

聖書学

「死海文書に関する近年の学問上の諸問題  
パート1、パート2」

「ドイツ聖書協会による  
ピブリア・ヘブライカ・クインタ版聖書」

その企画の始まり、原則、現在の進捗状況」

「マンラ本文とギリシア語訳聖書を見た  
ソロモンとヨシヤ（王上3章と王下22章）」

この二つのテキストは  
聖書本文の初期の歴史に光を投じるか？」

旧約聖書の底本となるヘブライ語聖書の最新版（第五版）が昨年より刊行された。シェンカー氏はその中心的役割を担っている。氏によると、ヘブライ語聖書第五版（BHQ）の画期的な特徴は、レニングラード写本の忠実な再現を試み、欄外脚注に対して詳細な解説をつけた点だ。欄外脚注は客観的な情報ではなく、むしろ写本を記した共同体が培ってきた信仰に基づいているという観点から、BHQは、同写本のあり方を明確にするという編集方針に立つ。今後は、最近の研究が反映されたBHQの全巻刊行が待たれる。

セミナー6、25



クラウス・  
ヴァハテル

新約聖書本文研究所  
主任研究員

「新約聖書本文最新版  
（ネストレ・アいらント27版）の歴史と編集方針」  
「ネストレ・アいらントのデジタル化プロジェクト」

# ソア28号発行によせて

## 会報誌「SOWER」ソア（＝種まく人）28号をお届けいたします。



財団法人 日本聖書協会  
総主事 渡部 信

ソア28号をお送りできますことを感謝いたします。日本聖書協会では、近年の聖書に対する関心の高まりを受け、「国際聖書フォーラム2006」を5月3日から5日までの3日間にわたり東京で開催いたしました。今回は、この29のセミナーと展示会の模様を特集としてお届けし、さらなる聖書普及の原動力としたいと願っております。

また、その他の活動としましては、引き続き後援会員を募り、世界の隅々まで聖書を頒布するために、聖書協会世界連盟を通してきめ細かいプロジェクト型の海外支援体制を作りました。2006年度はエジプト、トーゴ、チェコ、アルバニア、ラオス、リトアニア、カザフスタン、パプアニューギニア、中国、ネパール、ルワンダ、ロシアなど、なんと19カ国の聖書協会へ、聖書製作支援、聖書運搬用車支援、点字聖書製作支援などを行います。このプロジェクトの最新ニュースなどは、これから随時お知らせしていくつもりです。

今後の聖書製作としましては、いよいよ「旧新約版スタディバイブル」が完成し、今年10月に出版予定です。解説つき聖書として多くの方々に愛用されることを期待しています。また2007年に向けて、初心者でもギリシア語聖書を聴き、読み、理解できることを目的とした「音声ギリシア語新約聖書」をオリジナルCD-ROM版として開発中です。日本聖書協会では数々の新しい企画を予定していますので、今後ともお祈りとご支援を賜りますよう、よろしく願い申し上げます。

### BS NEWS

## 地球の裏側を 訪ねて

渡部 信

わたべ まこと  
日本聖書協会総主事

が、現在、全世界で話される言語のうち、中国語を除けば、英語とスペイン語が最も多くの人々に使われていることをそこで実感した。日本人にとり、スペイン語を話す中南米の国々は、ちょうど地球の反対側にある最も遠い場所にあり、別世界のような気さえる。日本聖書協会では、すでに国内で30万冊以上のスペイン語聖書を印刷し、南米の国々に送って

いる。今後、スペイン語のバイブルトーク（音声聖書）を試作し、アフリカ、カリブ、中南米のスペイン語を話す人々に使っていただこうと計画している。（現在、CEV英語版とスペイン語版のバイブルトークが試作されています。ご希望の方に頒布できますので、お問い合わせください。日本聖書協会 頒布部 TEL 03-3567-1987）



WCC世界大会に出席



ヴァハテル氏は、新約聖書の底本となったネストレ・アランの歴史と今後について解説した。百年に及ぶ歴史の中で特に画期的なのは、一九七〇年代後半に出版された第26版。それ以前のように一人の学者による編纂ではなく、国際的な学者チームによってその本文が確立された。今後、膨大な写本群をまとめた大型批評版と、それを電子データ化したデジタル版の完成は、新約聖書の本文の確立に画期的な方法論を提供することになる。

セミナー2、8



ジェイムズ・M・ロビンソン

クレアモント大学院大学  
名誉教授

「著者としての福音書記者」  
「使徒信条からイエス自身の神への信頼へ」

イエスの言葉をそのまま書き留めたとされる「泉 (Quelle)」と呼ばれるQ資料を使い、イエス自身のメッセージを再構築することがロビンソン氏の研究の特徴である。Q資料の強みは、イエスの言葉に肉迫できること。各福音書の歴史的状况を丹念に探究する過程で、イエス自身が持っていた神への信頼が明らかにされる。また氏によると、イエス像に関しては、信仰者一人一人の多様な視点があり、これは、学者の歴史的構築においても同じである。

「生前のイエス研究」について、その立ち位置とともに解説。大貫氏曰く、古代ユダヤ世界に生きたイエスの存在を研究する際、「イエスの内側から」の視点が不可欠となってくる。その視点に立って、イエスの死について独自の解説も展開した。「イエスの外側から」ではなく「内側から」見た場合、イエスの十字架の上での死は、「覚悟の上」のものではないことになる。

セミナー28



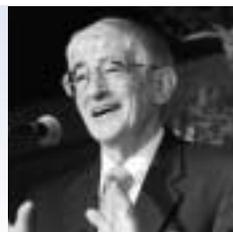
鈴木佳秀

新潟大学大学院教授、  
日本聖書学研究所

「神義論の書としてみた旧約聖書」

一千年を越える歴史の出来事を記した旧約聖書を、一貫した信仰の書として理解することも、また神の啓示の書としてのみ捉えることも不可能である。イスラエル王国の滅亡、補囚は、失敗と挫折の歴史であり、そこにおいては神の主権が常に問われる。旧約は、神ヤハウェとイスラエルの民との関係がどうあったのか、神の義がどのように貫徹されているかという視点から読める書物である。鈴木氏は、聖書は現代の読者にも働いており、自分がこの研究に入るきっかけとなった、と語った。

セミナー18、20



ジョン・ドミニク・クロッサン

ドゥポール大学名誉教授

「イエスと神の国」  
「パウロと平等の正義」

洗礼者ヨハネ、イエス、そしてパウロが提唱した神の国の意義を問い直し、その中心がイエス・キリストの十字架と復活にあったことを再確認する機会となった。クロッサン氏はイエスの十字架を、ローマ帝国と当時の宗教的指導者への抵抗として捉え直し、今ここにある神の国へ信仰者が参与していくことの大切さを強調した。また当時、イエスやパウロの信仰共同体が根本的な意味で平等の思想を実現しようとしていたと述べた。

セミナー24



大貫 隆

東京大学教授、  
日本聖書学研究所

セミナー3



月本昭男

立教大学教授、  
日本聖書学研究所

「旧約聖書の古典性」

月本氏は、旧約聖書を古典として読むにあたって、三つの観点から指摘した。まず、預言者の精神。虚偽の文明を見抜く批判的精神を持った預言者たちの視点から。次に歴史観から。一般的に考えられているような直線的・不可逆的な歴史観とは異なることを指摘。最後に、旧約聖書のダイナミズムについて。一貫してさまざまな現れ方をする、神と宗教を超えた見事な世界観を表した聖書の古典性を論じた。

セミナー19



橋本滋男

同志社大学教授

「初めてのギリシア語聖書」  
——日本語聖書を読み直す——

「初めてのギリシア語聖書」

「イエスの「内側から」と「外側から」  
——イエス研究の視点——

イエスの「神の国」についてのイメージ・ネットワークから始まり、十字架の死以前、つまり



その他の催し (コンサート、クイズ大会)

フォーラム2日目には、在日韓国人ヴァイオリニストとして活躍中のジョン・チャヌ (丁讀宇) 氏によるコンサートが開かれた。難しいセミナーとは違って変わり、参加者もリラックスした表情。「きみは愛されるため生まれた」「チゴイネルワイゼン」などの美しいヴァイオリン演奏の調べとともに、クリスチャンであるチャヌ氏の証しと軽快なトークは会衆を沸かせ、セミナーでは聞かれない朗らかな笑いが何度も会場に響き渡った。演奏後には、聖書協会のPRビデオも上映。



「聖書クイズ大会なんて、人が集まるのかな」。おっかなびっくり始められたこの企画、日本基督教団相愛教会牧師の真壁巖先生のご協力によって日の目を見た。三択形式のクイズは、司会者である真壁先生の元氣な聖書解説とともに進められた。「美人コンテストで優勝した人は？」。参加者の明るい笑い声があがる中、聖書協会スタッフも正解者に星マークをつけるために走りまわる。最後は、聖書協会監事である小山一平先生の優勝というおまけつき——。

セミナー14



宮崎修二

日本聖書協会翻訳部職員

「初めてのヘブライ語聖書」

初心者にはとつきにくいヘブライ語。その壁を取り去るために、トラーの巻物の写真等、多くの図版を交えた分かりやすい講義が展開された。ギリシア語、アラビア語との関連を含め、ヘブライ語文字成立が宮崎氏によって解説され、最後には皆で創世記一章一節をヘブライ語で音読した。参加者から「面白かった」「和やかだった」との声が聞かれる楽しい学びとなった。



### アートギャラリー、展示、体験コーナー

フォーラムでは、リカ・トーヴ氏 (E.トーヴ夫人)、パイブル&アートミニストリーズ (B & A) の協力を得て、聖書に題材をとった作品を展示したアートギャラリーを設置。トーヴ氏のカラフルで可愛い版画、B & A 出展者 (安藤華舟、高橋文子、西村正幸、安富信也各氏) のそれぞれに個性的で力強い作品は、会期を通じて参加者の目を楽しませていた。色彩豊かな作品群は、学問的なセミナーが多いフォーラムに彩りを添えた。



直接、「光」から聖書の御言葉を聞く。左ページの手本を読み、右ページになぞる。会場では「可視光通信体験」(提供: (株) グローバルコム) と「写教聖書体験」(提供: ティー・ユー企画) の二つの体験型展示も設けられ、セミナー間には、この少し変わった聖書を試す人々の姿が見られた。また、ブックショップも開かれたほか、「パノラマパイブル」パネル、および聖地写真のパネル (撮影: 横山匡氏) も展示され、多くの参会者の目を引きつけていた。



#### セミナー 16



山内 眞

東京神学大学学長、  
日本聖書学研究所

#### 「パウロ研究の最近の動向」

パウロ研究においてブルトマンは、第二次大戦中に新約聖書の実存的解釈を提唱し、多大な影響を研究者に及ぼしたが、すでにそれから六十五年が経過した。講義では、パウロ書簡を読むための新たな方法論の台頭といったブルトマン以降の一連の研究動向や、特にケーゼマン、ステンダール、サンダースなどの代表的研究者の論考が概観された。さらに山内氏は、近年注目が集まっている修辞学的批評、書簡類型論にも言及した。

#### 聖書翻訳

#### セミナー 11、26



ローレンス・ド・フリス

アムステルダム・フリー大学教授

#### 「聖書翻訳と信仰共同体」

——歴史的、機能的な視点からパート1、パート2——

聖書協会世界連盟の翻訳コンサルタントの中でも注目を集めるフリス氏は、翻訳学に関する広く包括的な理解を提示した。その鍵となる概念は、「スコポス(機能)」。翻訳された聖書が、それを用いる共同体でいかなる「機能」を持つかにより、訳文や文体、装丁までもが決定されていく。唯一絶対の翻訳方針というものも存在しない。翻訳聖書の機能により方針が決定されるということが、さまざまな例を挙げて分かりやすく解説された。

#### セミナー 12



ダウッド・ソシロー

聖書協会世界連盟アジア  
太平洋翻訳コーディネーター

#### 「アジアにおける聖書翻訳の歴史」

——中国、韓国、日本を中心に——



ミン・ヨンジン

韓国聖書協会総主事

#### セミナー 9



川島 第二郎

関東学院大学キリスト教  
文化研究所研究員

#### 「委員会訳『新約全書』(1880) 翻訳の国際的背景と中国語聖書」

聖書が、翻訳という作業を経て、どのように出来るのか。川島氏は従来の研究より一歩踏み込んだ過程を提示した。これまで委員会訳は中国語聖書の影響下でのみ語られる傾向にあったが、今回の講義では、中国語のみならずギリシア語本文の影響も大きく受けていることが指摘された。翻訳作業の過程において、多くの選択肢がある中で、なぜその単語が選択されたか。比較検討することにより、限られた状況の中で得られた最善の結果として聖書翻訳の営みがあることが分かる。

#### 「聖句のある風景——和訳聖書の歴史から」

聖書に触れ、そこから影響を受けた人物は数多くいる。特に明治維新前後においては、歴史的に活躍した人物と聖書との関係は決して小さくない。鈴木氏は、西郷隆盛の「敬天愛人」、勝海舟と中国語訳聖書、滝乃川学園の石碑、荻野吟子の記念碑、国会図書館といった、五つの聖句のある風景を紹介。これらは今日、日本の風景と化しており、他方では、この聖句の碑を通じて、その風景を聖書の世界化しているとも言えると語った。

#### セミナー 4



アレクセイ 松平康博

日本ハリストス正教会教団  
札幌ハリストス正教会長司祭

#### 「日本ハリストス正教会の聖書翻訳」

——大主教ニコライと中井木菟麻呂(ツクマロ)——

正教会の聖書翻訳については、専門家の間でもめったに触れられる機会がない。実際に松平氏は、明治時代から使用されているニコライ訳聖書の祈禱書の現物を提示しつつ、ニコライと中井木菟麻呂がどのように翻訳をしたのか、その原則を語った。とりわけニコライ訳は、必ず現地の人との密な交流を経た後に翻訳をする伝統があったという。

#### 「中国語聖書翻訳の歴史とその現代への影響」



ユー・スイヤン

シンガポール聖書協会  
翻訳コンサルタント

#### セミナー 22

二〇〇七年に、宣教師ロバート・モリソン来中から二百年を迎える中国において、これまでどのように翻訳が進められ、聖書が普及してきたかについてユー氏は語った。さまざまな翻訳の中でも、とりわけプロテスタントによる三つの聖書翻訳、文理訳、浅文理訳、中国語和合訳を例に、その歴史、主要語句の論争や問題点を取り上げ、現代の課題や今後の展望等を示した。

#### セミナー 21



鈴木 範久

立教大学名誉教授



教会と社会

セミナー10



加藤常昭

神学者、聖書塾主宰

「聖書の読み方―改めて問う」

日本のプロテスタント教会の礼拝において、聖書朗読や説教の時に共に聖書を聞く習慣が定着している。しかし本来、聖書は黙読ではなく、朗読を耳から聴くものであった。声に出すことで、聖書の言葉は立ち上がってくる。一生懸命に聖書の言葉を読むと、その言葉そのものが自らに語りかけてくるのである。そして、聖書の本当の読み方とは、説教者により命がけで一生涯懸命に語られる、解凍された聖書の言葉、すなわち説教を通してでなくては分らないものである。

セミナー7



栗林輝夫

関西学院大学教授

「聖書は、宣言する」

「聖書は、宣言する」――解説ではなく宣言する教会―― 講義は祈りとともに始められた。大勢の聴衆の前に晴佐久氏は、「聖書は、宣言する」と熱心に語りかけた。このタイトルには、神が一人のキリスト者を通して神ご自身の愛を宣言するという、その宣言の現場が聖書であるという意味が

「アメリカン・シネマの聖書の世界」

最近の神学では、聖書を物語として読むことが注目されている。栗林氏は、アメリカ映画のポップカルチャーは、キリスト教の福音を初歩的に伝えるためには面白いメディアであると語った。たとえば旧約では、カインとアベルを下敷きにした「エデンの東」、バベルの塔をモチーフとした「メトロポリス」、「未知との遭遇」など。そして「E.T.」は、キリストの生涯をスピルバーグ監督が無意識の中からつかみ取った作品といえる。

セミナー13



晴佐久昌英

カトリック東京教区 高円寺教会主任司祭

「聖書は、宣言する」

セミナー17



町田俊之

バイブル&アート ミニストリーズ代表

「聖書と美術―信と美の回復を目指して」

現代のキリスト教芸術においては、音楽と聖書の関係が強調されがちだが、美術を通して聖書を考える機会となった。過去、美術は、教会で「見る聖書」として用いられていた。町田氏はこの講義において、現代において再び美術が力を取り戻すために、聖書の記述の中で芸術的表現について記載されているところを説明し、レンブラントの作品を主な例として取り上げた。また、視覚的に信仰を表明できる一つの形として、さまざまな提案もなされた。

セミナー27



渡辺和子

ノートルダム清心学園理事長

「聖書と私―良きしらせ」

「全世界に行って、すべての造られたものに福音を宣べ伝えなさい」。キリストが弟子たちに伝えた最後の言葉。ところで、二一世紀の日本において、「福音（＝良きしらせ）」とはいったい何か。渡辺氏によれば、「良きしらせ」とは「大丈夫の福音」のことである。主はすべての人をありのまま愛して下さり、「安心していい、安心して行きなさい」と語りかけてくれる。「大丈夫だよ」。この言葉を持つ深い意味を、人は苦しみの中でこそ感じることが出来る。

セミナー29

シンポジウム「今、聖書を問う」

原典から現代翻訳へ――聖書を現代にどう伝えるか

①マソラ本文の重要性（E・トールヴ）、②多様な共同体における、それぞれの写本の価値（A・シエンカー）、③テキストに対する読者の位置づけ（手島勲夫）などがまず提案された。

終わりに

「激動の世界に、変わりなき神の言葉」。二〇〇四年に採択された聖書協会世界連盟の標語である。神の言葉は変わることはない。けれども、人間の言葉は一つではなく、しかも時代とともに移り変わる。「原典から現代翻訳へ――聖書を現代にどう伝えるか」。聖書フォーラムのシンポジウムでも取り上げたこのテーマは、聖書を翻訳し、頒布する者にとっては普遍的な問題を投げかけている。

国際聖書フォーラムでは、さまざまな角度から聖書について、また聖書翻訳について学ぶ機会を得た。フォーラムのメイン・テーマは、「今、聖書を問う」。現代の日本において、どのような聖書翻訳が、聖書が、またその普及のための活動が求められているのか。参会者、主催者共に考え直し、学び直す良い機会となった。

「国際聖書フォーラム2006」主催者の声

国際聖書フォーラムは、企画から開催まで非常に短期間のうちに準備いたしました。準備不足によりご迷惑をおかけしたこともあります。それにもかかわらず、講師をはじめ、司会者、翻訳の労を取ってくださった方々が快く協力して下さり、感謝の念に堪えません。また、このフォーラムの準備のため、ドイツ、オランダ、アメリカのほか、アジアにある多くの聖書協会から協力と参加を得ました。

会期中、講師の方々それぞれ、多様な角度から聖書についてお話しくださいました。準備の打ち合わせをしながら、それぞれ視点の違いがあっても、聖書に対する思いの深さは同じであることを垣間見る瞬間がありました。それは、実際に参

加して下さった方々も同じで、フォーラム後、「学会とは一風違った明るさや温かさ、そして真剣さを感じました」というお手紙を参加者のお一人からお寄せいただきました。学術的な水準を保つことも重要な目的でしたが、集まった人々の中で聖書に対する深い思いを共有できたことはなによりも素晴らしいことです。

時には対立する意見交換があったとしても、聖書がフォーラムの中心であったことに変わりはありません。一人でも多くの方が、一回でもいいから聖書を手に取り、ページを開いてほしい。読んでほしい。そこから先は、神の導きがお一人お一人にあるようにと祈るほかはありません。

翻訳部 谷口裕子

国際聖書フォーラムの講義録は、九月に日本聖書協会から出版予定です（裏表紙広告参照）。詳しくは日本聖書協会頒布部までお問い合わせください。電話 03-355671987

# 初期キリスト教と 聖書的伝統



水垣 渉

みずがき わたる

京都大学名誉教授、キリスト教学

## 聖書的伝統とは？

二千年にわたるキリスト教の歴史のアイデンティティーは、一言で言えば聖書にある。今日では、信仰や教義や教会組織などをもってキリスト教を一義的に定義し、またその広がりや十分に把握することは困難になっている。聖書だけが、キリスト教を内側からも外側からも際立たせている印である。この意味で、キリスト教の歴史のアイデンティティーは聖書にあり、それゆえキリスト教は聖書の伝統だと言つてよい。さらに、キリスト教が古代イスラエルとユダヤ教の伝統の中で成立し、発展してきたことから言うと、キリスト教は、それを含むより大きな聖書の伝統の中に位置づけられ、それとの連続性と非連続性において新しい聖書の伝統を開くことによって自己を確立した宗教だと言えることができる。それゆえ、ここで言う聖書の伝統は、聖書内解の伝統にとどまらず、聖書の翻訳、解釈、批判、文化的影響までも含む、事実上、キリスト教の全活動に関わるものになる。

## 初期キリスト教とその聖書

キリスト教の全歴史の中で最初の約六百年間を占める初期キリスト教は、聖書の伝統において最も重要な時期であった。なによりも、キリスト教の聖書をユダヤ教の聖書から区別している「新約」を初期キリスト教が形成したからである。ここにはきわめて複雑な事情が観察される。初期キリスト教は、ユダヤ教の聖書の伝統を、そのヘブライ的な形とともに、ギリシア語に翻訳された形（七十人訳）でも大幅に受容したばかりでなく（連続性）、自分たちの伝承と文書を生み出して（不連続性）、両者を「旧約」と「新約」として総合した。多くの人々が当たり前と想っているキリスト教の「聖書」は、文化的に見ても画期的な事業であった。そこで、初期キリスト教の聖書の伝統の特徴のいくつかを挙げてみたい。

## 文書を作る伝統

初期キリスト教は早くから主イエスの伝承を集め、福音書という文書の形にした。また、手紙や行伝や黙示録のような文書をも作った。一世紀の後半は、新約

## 多様なものの統一

最も驚くべきことは、聖書の伝統の中で成立してきた多様な諸文書をそれぞれ旧約と新約という集成にしたことが独創的な仕事であっただけでなく、さらにそれらを一つの聖書としたことである。英語の Bible は、元来はギリシア語の biblion の複数形 biblia から来ていて、それをそのままラテン語に移して単数扱いにしたものである。このように、それぞれ複数の文書からなる二つの集成を一つにしたのが初期キリスト教であったが、そこには、複数の異質のものを一つに総合する大きな構想力が働いていたに違いない。この構想力は、すでに大きな聖書の伝統の中でずっと働いていたものである。キリスト教の歴史のアイデンティティーを支えてきたものも、これにほかならないとわたしは考えている。

## 多様な文書を集める伝統

聖書の伝統では、旧約以来、個人の著作ではなく、共同体の伝統に属する多くの人々の著作が集められた。古代ギリシアでは、プラトンやアリストテレスのような哲学者の著作が著作集の形で集められたが、それらは個人の著作であって、さまざまな人々の多くの著作を一つに集めることはなかった。これに対して初期キリスト教は、使徒たちの手紙や複数の福音書を集めて新約とした。その中に、共観福音書のように、三つの似通った福音書が収められているのも、さらにまたヨハネ福音書のように、これらと違った性格のものが一緒にされているのも不思議である。なかなか説明しにくい事実であるが、旧約の聖書の伝統以来、文書の複数性に対する抵抗がなかったというより、むしろ積極的な態度があったのであろう（証言性ということも）。このことがその旺盛な文学的生産力ともあいまって、初期キリスト教を「文書の宗教」にし

に収められている文書を生み出す文学的生産力がとみに高まった時期である。書き物の重要性がこれほど早くから認められたのは、古代の諸宗教では珍しい。キリスト教成立当時のヘレニズム・ローマ世界に広まっていた密儀（宗教）は文書を作らなかつた。仏教の初期経典は、仏滅後、数世紀経ってから成立した。このように文書を作る伝統は、明らかにユダヤ教の聖書の伝統から受け継いだものである。そして、初期キリスト教の文学的生産力は、新約に収められた文書にとどまらなかつた。福音書のジャンルに属す

本稿は、二〇〇四年五月から六月にかけてクリスチャンセンター神戸バイブル・ハウスで開かれた「第八回聖書セミナー」のうち、第二回の講義内容をもとにご執筆いただきました。

# 生活の智恵満載の聖書

アレクセイ松平康博

## エッセー ㊦

今年五月のゴールデンウィークは、私にとっても人生の大きいなるゴールデンウィークでありました。と申しますのは、日本聖書協会主催された「国際聖書フォーラム二〇〇六」で、世界の著名な先生方の講演を日本にいながらにして拝聴することができ、さらにその上、私ごとき者が講演の一コマを担当させていただいたからです。

私の担当させていただいた講演のテーマは、日本ではなじみのうすい東方正教会の紹介と、日本における正教会の聖書翻訳についてでありまして、全三日間、二十九講演のうち、正教会に関するものは私のだけだったと思います。責任の重さを感じました。講演なさる先生方は国際的な聖書学の第一人者、国内の講師諸先生方も、たくさん著書がおありの方ばかりで、ご指名をいただいた時は足のすくむ思いでありました。はたしてお受けして務めることができるものかと悩みました。

しかし、このような場に立たされた時、私をふるいたたせてくれるのは、マタイによる福音書一章三〇節の「わたしの軛は軽いやすく、わたしの荷は軽いからである」の御言葉であります。この御言葉は、どんな時でも私に大きな力を与えてくれるものです。何かにチャレンジする時、壁といわれる大きな困難に突き当たった時でもあります。

六十有余年、医師、病院とは無縁な生活をしてきた私ではありますが、昨年夏にガンを宣告されました。定期検診で異状を知らされ、すぐに近くの病院へかけ込んだところ、「直腸ガン」と診断されました。人一倍健康と思っていた「私が」の思いでしたが、その時もこの御言葉に救われ、執刀するお医者さんにすべてをおまかせし、手術となりました。幸い、大事には至らず、負いきれないものではなく、術後も抗ガン剤治療をしなくてもよいというものでした。

思いおこせば、過去にも数々の難関を乗り越えてきたのでありますが、最大の山越えは、もう約三十年も前になります。四十歳の時、当時、人様にうらやましがられる大会社での二十数年の奉職を辞し、正教神学院に入学、聖職への道を選んだ時のことです。収入はゼロ、たいした蓄えもなく、愚息はまだ小学校五年生、妻子を路頭に迷わせるかもしれない道を選び、無謀なことだと批判も受けましたが、先輩神父さんの「大丈夫ですよ。神さまのなさることに間違いはありませんから」とおっしゃってくださいました言葉に励まされての出発でした。



小林富次郎

た。そして現在に至っています。

世の中には、私のように聖書の御言葉に勇気づけられて事を決したという話はよく聞きます。時には生命をも救われた話もあります。私も大きな感銘を受けたエピソードのひとつに、ライオン菌磨の創始者、小林富次郎翁の話があります。

翁はライオン菌磨を設立する以前は、鳴行社という会社を共同経営しておりました。その会社は、石鹼製造のかたわらマッチの製造もしておりました。石鹼の需要が季節により変動するのに対し、マッチは年間を通して平均している点に目をつけ、マッチの製造に力を入れようと考え、原木の状態を三陸、東北、北海道までつぶさに調査をし、その結果、北上川の水運の便をも考慮して三陸地方に決め、宮城県石巻港に工場を設置しました。

ある時、全財産を投資し、石巻市の奥、柳津という山林業の町でたくさんのお金を購入し、筏に組み、北上川に流し、下流の石巻港で引き上げるつもりでした。ところが、嵐で北上川は大氾濫をおこし、購入した原木の筏は全部流失してしまいました。軸木事業の拡大をはかり、これからという矢先でしたので、その打撃は彼を徹底的にうちめしました。もはやこれまでと北上川に身を投じようとした時、彼の頭によぎったのは、神戸の教会の牧師からのハガキに書かれてあった聖書の言葉「凡ての懲治今は悦しからず反つて悲しと思はる、然ども、後に之に由りて鍛錬する者には義の平康なる果を結ばせり」（ヘブル人への手紙二一章一一節）でした。これによって自殺を思いとどまりました。その後も数々の苦難が彼を襲いましたが、この経験と教訓を生かして乗り越え、現在のライオン（株）を創立し、成功させたのであります。

小林翁のように、いざという時、聖書の御言葉にふれたことで人生を大きく変えることにもなります。聖書の至るところに、私たちの生きるための智慧が十分に含まれています。私はよく皆さんに申し上げることがあります。苦難、困難に出会ったら、まずどこでもいいから聖書を開いてごらん下さい。必ず解決の糸口が見つかります。これは単なる「神のみ」、無責任の代名詞みたいなものではありません。自分勝手に能力の限界をつけるのをやめて、「能力をお与えください」の祈りを添えての「神のみ」をすれば、必ず良い解答が得られるでしょう。

もっともっと多くの人たちに聖書にふれていただく、御言葉にふれていただくならば、毎日報じられる不幸な事故、犯罪を防ぐこともできるでしょう。日本聖書協会の聖書頒布、私たちクリスチャンの福音伝播の役目の重要さを改めて痛感させられるものであります。



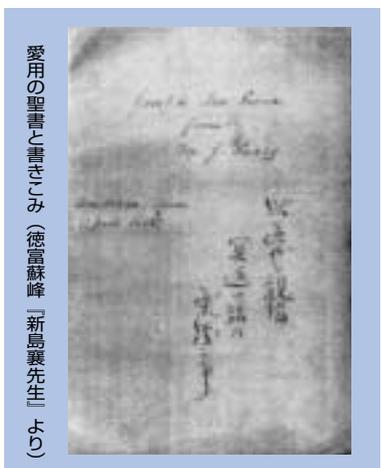
アレクセイ 松平康博 (まつだいら やすひろ)  
日本ハリストス正教会長司祭

# 刀をかえて聖書に 新島襄と聖書

鈴木範久 すずきのりひさ 立教大学名誉教授

新島襄、内村鑑三、柏木義円、住谷天来……、いずれも今の群馬県にゆかりのあるキリスト者である。群馬県議会は、一八八二（明治一五）年、全国に先駆け廃娼を決議した。当時の議会には、湯浅治郎をはじめ数名のキリスト信徒がいた。その一群をふくめ、ここに名前を挙げた人々は、いずれも新島襄の影響なしには語られない。

新島襄は、蘭学を学んでいた二十歳のころ、日本語に訳されたロビンソン・クルーソー物語や、ブリッジマン (Bridgman, Elijah C.) によって書かれたアメリカの歴史地理書を友人から借りて読む。前者は『漂流紀事』、後者は『連邦志略』とみられる。前者の『漂流紀事』には、旧約聖書



愛用の聖書と書きこみ（徳富蘇峰「新島襄先生」より）

のアブラハム、ヨセフの話が登場、苦難にあつて時を待つ心得が説かれている（ちなみに立教大学所蔵の故・海老沢有道氏旧蔵『文明源流叢書』には、同書に収録された『漂流紀事』のこの部分に、氏による傍線が付されている）。

（けだし神世を愛し甚だしきはその独生之子をもつてこれに賜うに至る。およそこれを信ずる者をして沈淪を免れて永生を得せしむ）

コライには聖書を教えるつもりはあったが、青年の夢は海外にあった。ひそかに外国船で函館を脱出、上海に向かう途中、船員から聖書を借りて読む。聖書と出会い、まるで帰郷して父母に逢った思いと感激する。いよいよ上海からアメリカ船に乗る。途中、香港で中国語訳聖書を買おうとしたが、日本の金は通用しない。一本残していた小さい方の刀を船長に買ってもらい、ようやく念願の聖書を手に入れた。航海中、船長から英文の聖書も与えられた。

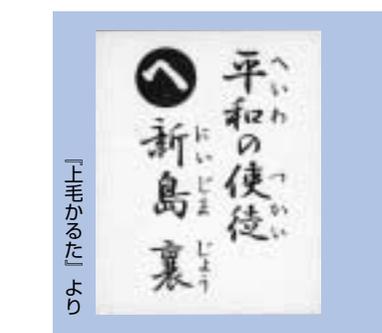
新島は、中国語訳聖書から次の言葉を日記に書き写したとされている（『新島研究』28）。

蓋神愛世甚至以其独生之子賜之俾凡信之者免沈淪而得永生



新島襄

最初の説教も同じである。神の愛を新島が説くとき、常に口をすっぱくして語っていることがある。そこでいう「神」は、ただの神でなく、「独一真神」の神であり、「愛」は、日本ではまったく聞いたことのない愛で



「上毛かるた」より

あるという点である。聖書の訳語として「神」と「愛」とを採用したがための苦労

といえる。

新島は、アメリカのフィリップス・アカデミー在学中の一八六六年、洗礼を受ける。このとき、友人から英文の聖書を贈られた。欽定訳聖書 (AV) であり、一生を通じ愛用の聖書になる。没後、同書を遺族から譲り受けた徳富蘇峰によると、新島はこれを常に愛用した。

説教の草案などの書き込み、朱点、緑点、黒線などが随所にみられ、三面にほどこされた金箔は剥落して、あたかも金閣寺の天井のようであるという。のちに同書は同志社に寄贈された（徳富蘇峰『新島襄先生』同志社、一九五五）。

新島はこの聖書の見返しに、「此道や（須臾不可離乃道なり）冥途の旅乃導灯（アカリ）かな」と記している。すなわち聖書は、瞬時も身から離すことのできない教えであり、一生を照らす導きの光とされた。

# パノラマバイブル発刊1周年

## 一生モノの豪華聖書

伝統的な聖書を、新しい感覚で読むことができたらという願いから、パノラマバイブルは生まれました。「次の代にまで伝えられるべき宝物」とは、ハーベスト・タイムの中川健一先生から頂戴した賛辞です。普通の『聖書』が、毎日でも手にとって一生読み続けていただきたい「神のことば」であるのと同じように、パノラマバイブルも、豪華聖書だからと本棚に綺麗に飾っているよりも、いつも手にとって眺めて、一生モノとしてのおつきあいをさせていただけるなら幸いです。

お寄せいただいた読者カードから、皆様のお声をご紹介します。

財産となる立派なご本を出していただき嬉しく思います。大切にします。(男性・団体職員)

私のパノラマバイブルの使い方ですが、まず本書を読み、次に聖書を読みます。聖書の広さ、深さが前より分かるようになりました。(女性・55歳・主婦)

聖書の視覚的理解の助けになるのが嬉しい。(男性・62歳・教師)

とても面白いです！デザインもすばらしい！色の使い方も上品ですね。各書がもう少し多いとなお良かったかもしれません。(女性・40歳・イラストレーター)

求道中の主人と二人で使っています。ページを開くたびに感動します。(女性・50歳・会社員)

子供、孫たちが訪れたとき、すぐ目について読める場所に置いています。ありがとうございます。(女性・57歳・無職)



**パノラマバイブル**  
— 体験する聖書 —

- 布クロス装、B4判 (257×364mm)、208ページ
- 差込ケース入り
- 定価 29,400円 (税込)

お求めは  
お近くの書店へ

ここに記載以外の製品も当協会のホームページ <http://www.bible.or.jp/online/> からご注文いただけます (荷造送料630円)。

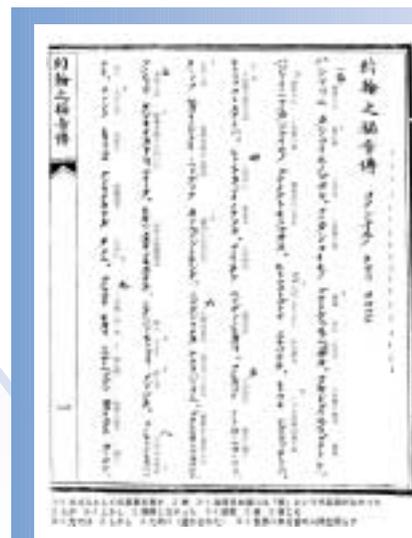
## ギュツラフ版 約翰(ヨハネ)福音之傳+CD

### 最古の和訳ヨハネ福音書復刻版、現代語訳、朗読CDつき

現存する最古の日本語訳聖書、「ギュツラフ訳聖書ヨハネ伝」が音声に。冊子には初版・原本(1837)からの復刻版に加えて、浜島敏氏(四国学院大学名誉教授)による現代語訳も収録され、170年前の翻訳が現代によみがえります。

- B5判、176頁、
- 付録：朗読CD1枚 (抜粋1~4、20,21章)
- 予価7,000円

新刊  
2006年9月末  
発行予定



ギュツラフ訳には3人の日本人漂流民(岩吉、久吉、音吉)が協力し、彼らの故郷、尾張地方の方言が見られる。そのため朗読者には、ミュージカル「こっぽん音吉物語」にて、主人公の音吉を演じた、名古屋出身の松本喜臣氏を起用した。

### イベント情報

#### 第45回聖書和訳頌徳碑記念式典

- 日時：10月12日(木) 10:00~12:30
- 場所：聖書和訳頌徳記念碑前(愛知県美浜町小野浦)
- 和太鼓「海嶺(第二部)」、参加無料：事前申込要

#### 聖書と音楽の出会い・三重

賛美に耳を澄ませ、聖書について考えるひと時を共に。

- 日時：10月14日(土) 13:30~15:30
- 場所：日本バプテスト宣教団津豊ヶ丘キリスト教会
- 参加無料
- 出演：ジョン・チャヌ氏(ヴァイオリニスト)

◆いずれもお申込み、お問合せは、日本聖書協会広報部まで TEL: 03-3567-1988 / FAX: 03-3567-4451

## 2007-2008 みことばつき手帳 (日本聖書協会制作)

二年分の予定が書ける **二年手帳** (2006年11月~2008年12月)



2007年だけでなく、2008年の予定も書ける二年連用型手帳です。教会暦、週毎の聖句(詩編、箴言より)を掲載するほか、路線図、年齢早見表、度量衡換算表、緊急電話リスト、世界の時差表などのお役立ち情報も満載です。

10月上旬発売予定  
予価1,470円  
(税込)

詳細はHPで見ることができます

<http://www.bible.or.jp/purchase/newbible/notebook.html>

◆ご予約、お問合せは日本聖書協会頒布部まで TEL: 03-3567-1987 FAX: 03-3567-4451 E-mail: distri@bible.or.jp

# 2006年度「海外聖書製作支援」計画について

皆様のご献金に支えられて、今年度は以下のとおりの支援を行う予定です。

## 海外への聖書送品計画

支援先国名	聖書の種類	支援数
エジプト	アラビア語聖書	60,000冊
	アラビア語新約スタディバイブル	10,000冊
チェコ	チェコ語聖書	20,000冊
フィジー	CEVバイブルトーク	100個
リベリア	CEVバイブルトーク	100個
<b>合計</b>		<b>90,200</b>



## UBS（聖書協会世界連盟）を通じて資金援助するプログラム

支援先国名	プログラム名	支援額（単位:USドル）
アルバニア	超教派共同訳聖書製作と初めての頒布	\$2,500
ウクライナ	ウクライナ語聖書翻訳	\$9,915
エジプト	アラビア語ヴァンダイク訳聖書（解説付）製作	\$13,997
	アラビア語ヴァンダイク訳聖書（引照付）製作	\$20,031
	アラビア語バイブルトーク製作	\$805
エストニア	聖書頒布	\$6,585
カザフスタン	カザフ語スタディバイブル製作	\$16,467
コスタリカ	聖書普及員による聖書頒布・普及 ノンクリスチャンへの聖書無料配布支援	\$14,238 \$1,084
スリナム	聖書頒布	\$286
チェコ	インターネットを活用した聖書頒布のためのシステム構築	\$1,543
	視覚障がい者のための大活字「詩編」製作	\$1,125
中華人民共和国	若者への伝道のための中英対照聖書製作	\$14,427
トーゴ	ゲー語新約聖書製作	\$13,300
	モバロク語新約聖書製作	\$3,387
	ラマ語聖書製作	\$4,733
ネパール	ネパール語点字聖書製作	\$4,162
パプアニューギニア	マギ語聖書翻訳	\$3,302
	ゴゴダラ語聖書翻訳	\$3,779
ベネズエラ	聖書翻訳	\$4,042
モザンビーク	ツィトコピ語新約聖書詩編付の初めての頒布	\$7,498
ラオス	少数民族「モン族」への聖書頒布	\$31,177
リトアニア	視覚障がい者のための大活字「新約聖書」製作	\$1,600
	子供向け大判聖書製作	\$1,500
	子供向け点字聖書製作	\$900
ルワンダ	点字福音書製作	\$3,750
レバノン	聖書出版支援	\$13,741
ロシア	ロシア語点字聖書製作	\$5,358
UBS	聖書協会世界連盟事務局へ	\$62,500
<b>合計</b>		<b>\$267,732</b>

※ 支援先国名五十音順

21世紀の今日も、いまだ世界の約半数（28億人）もの人々が「みことば」にふれることなくその一生を終えていきます。すべての人に福音が宣べ伝えられる日の実現のため、日本聖書協会はこれからも海外の聖書頒布支援を進めてまいります。皆様のご理解とご協力を切にお願い申し上げます。

# 2007年『日めくり聖句カレンダー』販売のご案内

## 世界初、『手話訳聖書』の全巻完成をめざして

生まれつきのろう者にとって、文字で書かれた聖書を読むことはたいへん困難です。ろう者が日常慣れ親しんでいる「手話」で聖書を読むことができるように、日本聖書協会では『手話訳聖書』の製作を「日本ろう福音協会」と協力して進めています。DVD 1枚分（約120分）の翻訳・製作のためには約200万円の資金を必要とします。そのほとんどの製作費が皆様のご献金で支えられており、それによって1枚100円で頒布されます。

「みことば企画」様のご協力により、2007年『日めくり聖句カレンダー』を1冊ご注文いただくことで、定価1,500円の中から300円が『手話訳聖書』の製作費として用いられます。

**\* 「手話訳聖書」に用いられるのは、この申込用紙にてご注文いただいた場合に限りです。\***

昨年は皆様から429冊のご注文をいただき、128,700円が『手話訳聖書』製作のために献げられました。今年も昨年同様、ご注文くださいますよう、よろしくお願いいたします。

## 2007年日めくり聖句カレンダー



2007年「日めくり聖句カレンダー」1冊につき300円は日本聖書協会と日本ろう福音協会が協力して進める『手話訳聖書』製作のために用いられます。

財団法人 日本聖書協会 募金部 TEL.03-3567-1980

## FAX. 03 - 3567 - 4436 財団法人 日本聖書協会 募金部 行

### FAX 注文書

※ご注文はFAXをご利用ください。

ご芳名

ご住所 〒 - -

TEL. - -  
FAX. - -

ご注文

『日めくりカレンダー』

冊を注文いたします。

※送料は1冊から10冊まで500円（一律）、10冊以上は無料です。恐縮ですが、お申込みは10月末日までお願いいたします。先着順で発送いたしますので、売切れの場合はご容赦ください。発送、請求は「みことば企画」（TEL.086-222-8297 担当/嘉崎）から直接いたします。

聖書普及を支えるサポーターになりませんか？

## 日本聖書協会 後援会にご入会ください！

すでに会員の方はお友達にお勧めください。

聖書を届ける活動は、教会にとって欠くことができない働きです。また、「すべての造られたものに福音を宣べ伝えなさい」（マルコ16:15）というみ教えによって、すべてのクリスチャンが主イエス・キリストから期待されている使命です。日本聖書協会の130年にわたる聖書頒布の働きも、多くの方々のお祈りとご献金によって支えられてまいりました。日本にも、世界にも、いまだ聖書から遠ざけられている人々が多くいることをぜひ覚えて、お祈りください。そして、これからも聖書を届ける働きを継続していくため、後援会員としてご支援くださいますようお願い申し上げます。

お献げいただく年会費によって、以下のプログラムが支えられています。

### ●海外聖書製作

貧困や災害、政情不安によって聖書を製作することが難しい国々の聖書協会に対して、聖書贈呈や資金援助を行っています。

### ●手話訳聖書製作支援

生まれつき耳の不自由な方々が日常慣れ親しんでいる言葉・「手話」で聖書を読めるように、「手話訳聖書」ビデオ・DVDの製作を資金面で支えています。

### ●点字聖書製作

点字聖書1冊（旧・新約聖書34冊、続編6冊が必要）の製作費は1,600円ほどですが、製作費をご献金でまかなうことにより、1冊100円、全巻でも4,000円での頒布を実現しています。



女性用

男性用

ご入会いただいた方には会員証と会員バッジを進呈し、年4回発行のニューズレター「からし種」をお届けして、聖書協会の働きを詳しくご報告いたします。聖書普及の働きがいつまでも続けられますように、継続的なご協力をぜひお願いいたします。

★年会費は下記の5種類からお選びいただけます。

A：1,000円    B：3,000円    C：5,000円    D：10,000円    E：50,000円

後援会入会申込みは綴込みハガキをご利用ください。

ホームページでも「入会申込み」をお受けしています。 <http://www.bible.or.jp/collection/col07.html>

Become a member and support the Bible Work

## 編集後記

今年話題となっている「ダ・ヴィンチ・コード」ですが、すでに日本ではピークを過ぎたかという気配です。確かに面白いのですが、目まぐるしい展開の連続で、ファストフードのようなお手軽な印象を持ちました。虚構に事実を混ぜることで真実らしく見せるといったのは小説の常套手段ですが、聖書の成立過程について作弄的な歪曲がなされたとする内容については、やはり悪影響が心配されます。日本では一つの娯楽作として冷静な受け止め方をされているようですが、聖書に対する人々の関わりの薄さの表れでもあり、日本社会への聖書普及の課題を示しているように感じます。

特集でもご報告しました「国際聖書フォーラム二〇〇六」では、聖書についていすれ劣らぬ興味深いセミナーがもたれました。こちらは、スルメのような歯ごたえのあるものばかりです。改めて、聖書は幅も広く、奥も深いのだと思わされます。これからも、一般の方々に聖書への学問的な学びの場を提供する機会として、これに類する企画を継続したいと考えております。

前号の銀座に続き、表紙画では神戸を取り上げました。神戸での聖書普及の歴史は古く、一八七八年に米国聖書協会（ABS）の分社が設置されています。二〇〇一年に聖書展が開催されたことを契機に、二〇〇三年四月に、教派を超えた西日本における聖書普及の拠点として神戸ハイブル・ハウスが設立されました。

### ◆訂正とお詫び

前号16頁の編集後記に「聖書館は、(中略)十二月十五日竣工となっておりませんが、竣工は十月で、開館式が十二月十五日のご指摘をいただきました。お詫びして訂正いたします。